NO.3 2005.10.1

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
ホームページ http://homepage3.nifty.com/kokaido/
事務局 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302 TEL/FAX 042-389-5534
宮田太郎（歴史古街道団 団長）

赤駒を山野に放し捕りかにて多摩の横山徒歩ゆか遣らむ

豊島郡上丁椋椅部荒虫之妻 宇遅部黒女
万葉集（巻二十・四四一七）

防人の道はどこだったか？ さきもりまつり2005開催

歴史古街道団（宮田太郎団長・団員 170 人）は2005年秋の事業を「さきもりまつり」と決定。武蔵国から遠く北九州（筑紫・壱岐・対馬）に赴いた防人たちの歩いた道を辿り、その道筋を検証します。併せて、万葉集の防人の歌に表された男女の別れの悲しさ・つらさや生きることの喜びを想い起こそうという企画シリーズを実施します。この企画は、次の四つのテーマで構成されています。

○第一部＝防人の道ウォーキング＝府中国府を出発した防人たちが多摩川を渡った後どのようなコースを辿り、次の駅家（うまや）まで歩いたのか。いろいろな学説の中から愛宕山・小野路・本町田・よこやまの道の4コースを実際に歩いて検証。

○第二部＝万葉集防人の歌を学ぶ＝万葉集の中から武蔵国の防人が詠んだ歌を中心に当時の政治的背景や防人とその妻たちの悲しみに想いを馳せます。

☆学習会「語り合おう 万葉防人の道と多摩丘陵」☆講演会「真情の叫び～防人の歌」☆私の好きな防人の歌選び＝武蔵国の防人の歌12首の中から「私の好きな防人の歌」を選んで投票してもらいます

○第三部＝11月23日（祝）「万葉防人見返りの峠ウォーキング」を実施。パノラマ台で別離のシーンを再現します。

○第四部＝「防人見返りの峠」標柱を立てる＝「よこやまの道」のパノラマ台に記念の標柱を立てます。

No.3

☆9月から 11 月まで、万葉・防人をテーマにした6イベントを連続開催。皆さんお誘い合わせてご参加ください。<関連記事2～3面に>

飛鳥の時代に

6企画を連続開催

さきもりまつり

あなたは、さきもり(防人)を知っていますか？！
都へ、そして九州へ越えていった峠が
多摩丘陵にあったこと知っていますか？

多摩市永山の峠(多摩のよこやま道パノラマ台付近)に推定されている“古代の大きな国道の存在”や“歴史ある古道がたくさん集まっていること”を広く知っていただくためのイベントを企画しました。ぜひ、ご参加ください

歴史古街道団団長：宮田太郎

—よこやまの道・パノラマ台(東京都多摩市永山の尾根)—

■2005．9．19(月・祝)　さきもりまつりシリーズ

「語り合おう
万葉防人の道と多摩丘陵」

11月に開催の「さきもりまつり~ 万葉防人見返りの峠ウォーキング2005」前の学習会。

〔内　容〕① 防人とは何か。万葉歌と防人について
講師＝今野耕作先生(埼玉大学特任教授)＝ビデオ出演
② 防人の見返りの峠と古代東海道の謎(宮田団長)
③ 万葉集の防人の歌について(調査研究部)
④ 意見交換「防人の道と多摩丘陵」
〔会　場〕VTA関戸公民館大会議室
〔時　間〕13:30~ 16:00
〔その他〕参加費(資料代)200円　事前申込不要
先着90人　【終了】

■2005．9．25(日)　さきもりまつりシリーズ

「さきもり(防人)の道はどこか
~幻の古代国道を探せ！」
(多摩市愛宕山の奥州古道)

〔集　合〕京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」西口改札前　10:00
〔内　容〕さきもり(防人)が歩いた幻の古道の推定ルートには大きく分けて二つの道「古代東海道」と「奥州古道」があり、そのうちの一つ奥州古道は比較的のんびりと歩けた官人や貴族の伝路(でんろ。伝え馬の道)で、防人が帰郷の際に使った可能性もあります。足柄峠を経て武蔵国府(府中)を通り東北蝦夷地への伝路を多摩市付近に探ります。
〔コース〕聖蹟桜ヶ丘~有山集落道(関戸渡し場道)~おばけ坂~へっぴり坂~東寺方(自由昼食)~稲荷塚古墳~愛宕神社と愛宕山(古代の烽火台か)~多摩センター駅
〔その他〕行程約3キロ　小雨決行大雨中止　雨具・昼食持参(体育館ほかに食堂有)
事前申込不要　直接集合地へ
参加費＝会員　700　円　会員は夫婦2人で1,000円　一般は1人1,000円　夫婦2人で1,500円
中学生以下無料　【終了】

■2005．10．13(木)　さきもりまつりシリーズ

「さきもり(防人)の道はどこか
~幻の古代東海道を発見？！」
(小野路別所、なぞの砦跡編)

〔集　合〕多摩センター駅小田急改札前　10:00
〔内　容〕遠く北九州への兵士として赴任していった防人たちがいよいよ多摩丘陵の諏訪・永山の尾根で家族と別れた後、覚悟と不安に涙しつつも越えた山々が今も町田市と多摩市の境の小野路別所にあります。頼朝の弟、源範頼ゆかりの寺や“古道が集まる奇跡の丘・野津田公園”内の推定古代東海道跡やS字古道、古戦場跡などを歩きます。
〔コース〕多摩センター駅~路線バスで京王多摩バス車庫~大軍勢の通った長い谷~別所東光寺と謎の砦跡~別所薬師堂~湯船、五反田~野津田公園上ノ原(各自弁当昼食)~綾部原~下堤のS字古道~三社大権現聖地~軍事戦略鎌倉道~京王多摩バス車庫~路線バスで多摩センター駅または永山・聖蹟桜ヶ丘駅。
〔その他〕行程約5キロ　小雨決行大雨中止　雨具・昼食持参　事前申込不要
参加費＝会員700円　(夫婦で1,000円)
一般1,000円　(夫婦で1,500円)

■2005．10．23(日)　さきもりまつりシリーズ

「さきもり(防人)の道はどこか
~古代東海道と七国山」
(本町田＆山崎編)

〔集　合〕①多摩センター駅小田急改札前　9:30
②小田急鶴川駅北口改札前　9:30
〔内　容〕防人の道は小野路から野津田へ向かい、上の原で二つ(座間と原町田各方面)に分かれていたと推定されま

タイムスリップ

各学説を歩いて検証

２００５開催

す。文献資料から奈良時代と平安時代では異なっていたのです。その双方の違いを現地にたどり、その痕跡を探します。

〔コース〕①多摩センター駅～路線バスで五反田～野津田上の原
②鶴川駅～路線バスで野津田バス車庫～野津田上の原【合流後】鶴見川～七国山～ダリヤ園で弁当昼食～山崎団地境尾根～織部谷戸の痕跡～図師梁田寺～図師バス停(淵野辺、町田、鶴川方面へ)

〔その他〕行程約5キロ　小雨決行大雨中止
雨具・昼食持参　事前申込不要

参加費＝会員 700 円（夫婦は2人で1,000 円 ）
一般 1,000 円 (夫婦 1,500 円)中学生以下無料

さきもりまつり

万葉防人見返りの峠ウォーキングマップ

■2005．11．3（木・祝）　さきもりまつりシリーズ

講演学習会「真情の叫び～ 防人の歌」

講師＝今野耕作先生（埼玉大学特任教授・歴史古街道団顧問）

〔内 容〕『万葉集』は1300年前に生きた人たちの心の叫びです。そのうそのない心の叫びを歌という表現で記録したのが万葉の世界です。その中から、兵士として徴発され筑紫・壱岐・対馬など北九州の守備に赴く防人とその妻や家族の歌をとりあげ、今野耕作先生にお話をしていただきます。 なお、この講演会は「さきもりまつり～ 万葉防人見返りの峠ウォーキング2005」前の学習会として行うものです。参考に防人の衣裳を披露します。

〔会 場〕関戸公民館・大会議室／VITA8階

〔時 間〕13:30～ 16:00

〔その他〕参加費（資料代）700 円　事前申込不要

さきもりまつりイベント一覧表

9/19（祝）	「語り合おう万葉防人の道と多摩丘陵」
9/25（祝）	防人の道ウォーキング①（愛宕山コース）
10/13（木）	防人の道ウォーキング②(小野路コース)
10/23（日）	防人の道ウォーキング③(本町田コース)
11/ 3(祝)	講演会「真情の叫び～ 防人の歌」
11/23（祝）	さきもりまつり 万葉防人見返りの峠ウォーキング 2005 (府中大国魂神社または聖蹟桜ヶ丘駅から出発の2コース) ・見返りの峠標柱除幕式 ・防人と妻の別れのシーン再現(パノラマ台)

■2005．11．23（ 木・祝）

さきもりまつり

「万葉防人見返りの峠ウォーキング」

〔集 合〕①ロングコース/ 9:30〔府中大国魂神社入口鳥居前〕
②ショートコース/ 10:30〔京王・聖蹟桜ヶ丘駅西口改札前〕

〔内 容〕 北九州へ向かう防人たちは、それぞれ国ごとに国府に集められ防人部領使に引率されて出発しました。武蔵国では国府があった府中から隊列を組んで旅立ち、やがて多摩川を渡り多摩丘陵の小高い丘の峠では二度と戻れないかもしれないことを覚悟して、愛しの妻や家族に手（袖）を振りながら心の中で別れの叫び声をあげたことでしょう。

当日は、府中から多摩丘陵よこやまの道「パノラマ台」まで当時の推定ルートを実際にたどり（ウォーキング）とパノラマ台での「防人と妻の別れのシーン」を再現します。夕暮れ時の峠から見る景色の美しさは、時代を超え、大きな感動となって見えてくることでしょう。

〔コース〕①②両コースが11：45頃に大栗橋で合流～連光寺の大坂から高西寺～打越山古道遺跡～馬引沢～諏訪境～防人の丘メイン会場（多摩市陸上競技場近くの弓の橋たもと）～(昼食)～多摩よこやまの道～パノラマ台（防人見返りの峠)【パノラマ台からの最寄駅／永山駅、黒川駅、はるひの駅】

〔その他〕行程①約6キロ②約3キロ　小雨決行大雨中止
雨具・昼食持参　事前申込不要

〔参加費〕大人 500 円（資料・バッジ代）
中学生以下 100 円（バッジ代）

歴 史 古 街 道 団 活 動 予 定 （２００５/１０～ ２００６/１）

年末・年始の歴史ハイクと日帰りバス旅行！
“さきもりまつり”が終わったら柔らかな初冬の陽を浴びながら、いつもの「歴史ロマン古道」探索のウォーキング。また、バスに乗って楽しい小旅行がお待ちしています。皆様お誘い合わせの上お気軽にご参加ください。

古道探索ウォーキング

■2005年12月13日（火）
「座間の防人の道と
サイコノハラを歩く」

〔集 合〕ウォーキング
ＪＲ横浜線「古淵駅」改札口 10:00
〔内 容〕奈良時代に防人が歩いた古代東海道は、相模川を座間や厚木あるいは河口に近い寒川神社付近で西へ渡り足柄峠へと向かったようです。座間は古い文献には「夷参（いざま）」と呼ばれ、駅家（うまや）という公的な休憩所があって防人たちの休憩や宿泊所となっていたとも想像されます。ミシマサイコという薬草が数多く生えていたことから「サイコノ原」ともいわれた相模野の古道と伝説をたどります。
〔コース〕
古淵駅～大沼の直線道～大沼神社～大沼中学校前の道者みち跡～ウマヤクボ（麻溝台の北里大学付近）～一等三角測量点と二つ塚推定地～昼食（相模原公園で弁当昼食）～座間キャンプ勝坂青少年広場と古道窪地～みねん坂～磯部宿～勝源寺と石楯尾神社～ねこ坂～新磯野バス停～路線バスで小田急座間駅
〔その他〕行程約6キロ

＝ウォーキング共通参加要項＝
☆参加費
団員 ７００円(夫婦１,０００円)
一般１,０００円(夫婦１,５００円)
中学生以下無料
☆申込不要(当日集合場所で受付)
☆小雨決行・大雨中止
昼食持参・雨具持参

２００６年度初頭新企画 関東の歴史古道逍遥

■2006年1月17日（火）
「横浜文明開化の物語
～その遺蹟を探る」

〔集 合〕ウォーキング
ＪＲ根岸線関内駅北口改札前10:00
〔内 容〕横浜関内のひと昔前は内海の中。ナマコと海苔の育つ寒漁村だった。山手の丘から今のみなとみらい方向に延びていた横に長い浜、そこが今の県庁やシルクセンターの海岸通りである。ちょんまげに羽織袴の侍と軍服に身を包んだ異文化の民族同士がもの珍しげな眼で向き合ったその不思議な光景、神官の服装でアメリカに船出した岩倉具視の出港場所に今も残る「象の鼻」という古い桟橋、横浜スタジアムの外の木陰に今も残る三階建ての豪華絢爛な遊郭の名残りの灯篭、何もかもが新しかった当時の感動を現地で再発見しましょう。
〔コース〕
ＪＲ関内駅～関所跡と日本初の鉄橋～馬車道～ガス灯と街路樹発祥の地～牛馬飲水桶～アイスクリーム発祥の地～写真発祥の地～日本正金銀行跡（博物館）～昼食（日本郵船資料館レストランほか自由）～ジャックとクイーンとキング～開港資料館と日米和親条約締結の浜～象の鼻（旧桟橋）～イギリス波止場～フランス波止場（山下公園）～中華街～乳搾り発祥の地～散髪屋発祥の地～港崎遊郭岩亀楼の灯篭（横浜スタジアム）～ＪＲ関内駅
〔その他〕行程約6キロ

日帰りバスツアー

■2005年10月5日（水）
「伊豆国府三島の“さきもりの道”と
柿田川の湧水を訪ねて」
（行き先＝静岡県三島市、函南町）

〔集 合〕バスツアー
①永山駅小田急改札前 7:00
②ＪＲ成瀬駅北口改札前 8:00
〔内 容〕多摩から足柄峠に駅路（古代東海道）をたどって向かった防人たちは伊豆の国府で休憩しました。国府は三島大社付近と考えられています。国分寺と三島大社の関係、富士の湧水が噴出する美しい柿田川水源地、弥生遺跡や古墳群、平安時代の終わりには若き源頼朝や家臣の北条、比企、田代一族が歩きまわっていた古道や秘史ともいうべき史蹟の数々、文覚僧正ゆかりの寺院など知られざる伊豆半島付け根の魅力を探ります。
〔コース〕
永山駅～成瀬駅～東名高速～沼津ＩＣ～三島大社～国分寺跡～昼食～柿田川水源地～函南町柏谷の百穴～源頼朝の経塚「王城山」と天降神社の弥生遺跡～奈古谷の国清寺と文覚僧正の幽閉地～沼津ＩＣ～横浜町田ＩＣ～成瀬駅～永山駅
〔その他〕参加費5,000円・先着28名（※昼食代は含まれていません）

■2005年12月1日（木）
「武蔵国の古代を知ろう！
さきたま古墳の謎に迫る」
（行き先＝埼玉県行田市）

〔集 合〕バスツアー
京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」西口改札前
7:50

〔内　容〕なぜ武蔵国府は府中の地に定められたのかという謎はまだ解明されていません。府中より大型古墳が多い埼玉県行田市に国府があっても良かったのに何故なのか。地図で見ると府中の真北にあたる埼玉古墳の謎を“道と古代測量”の新視点で探り、また有名な稲荷山鉄剣によって生じる疑問と前方後円墳が同じ方向に並ぶ不思議など、ある仮説をここで提示し考えてみます。

〔コース〕

聖蹟桜ヶ丘駅～貸切バスで関越高速～東松山IC～さきたま古墳群 丸墓古墳、将軍塚古墳、前玉神社ほか、付近の史蹟も少しまわります。）昼食は飲食店または公園内で弁当～関越自動車道～聖蹟桜ヶ丘駅

〔その他〕参加費 5,000 円・先着40名
(※昼食代は含まれていません)

■2006年1月24日(火)
埼玉高麗の里の巾着田と
古代仏教聖地の謎
(行き先＝埼玉県日高市)

〔集　合〕バスツアー

ＪＲ立川駅改札前のルミネ入口　7:45

〔内　容〕入間川が蛇行して流れる埼玉県の高麗の里は真紅の曼珠沙華が咲き乱れる巾着田で有名です。ここに奈良時代の初めに関東各地から高麗人たちが移住したことは続日本紀にも記され、今も残る高麗神社裏にはリーダーの高麗若光が埋葬されたことまで伝えられています。団長が提唱する高麗若光ラインとはなにか、そして若光の真の埋葬地とは。驚異の測量と関東山辺の道の謎を古道と仏教寺院の関係から解いていきます。

〔コース〕立川駅～圏央道入間IC～狭山日高IC～高麗神社と高麗家住宅～聖天院勝楽寺 高麗若光の墓）～昼食 飲食店）膳椀淵～高麗の里～資料館～巾着田と 本郷の九万八千神社～若光一族居住伝説地～高岡廃寺（ 近接地）～立川駅

【その他】参加費5000円　先着28名
(※昼食代は含まれていません)

2泊3日バスツアー

■2005年
10月26日(水)～28日(金)
紅葉の奥州平泉
源義経北行伝説の道と
遠野むかし語りの里
（奥州大道編）
(行き先＝岩手県平泉・花巻・遠野)

〔集　合〕バスツアー

ＪＲ平泉駅・正午集合(詳細は別途)

【説明会】10月12日(水)15:00～

〔内　容〕NHK源義経で人気の平泉から花巻、遠野の秋を楽しみます。義経は実は生き延びて津軽から北海道へ渡ったという北行伝説の道を岩手県内に探り、蝦夷征伐で知られる坂上田村麻呂や八幡太郎、そして蝦夷征討軍の兵士や柵戸（きのへ）といわれる移住民が往来した古道と史蹟、宮沢賢治の故郷や遠野のむかし語りの里猊鼻渓（げいびけい）では船下りを楽しみます。

〔コース〕

ＪＲ平泉～毛越寺～弁慶の墓～北の方と娘の墓～中尊寺金色堂～高館義経堂～柳ノ御所跡～泊(武蔵坊) ～えさし藤原の郷（ NHK ロケ地）～遠野の弁慶続き石～曲がり家～伝承館～かっぱ淵～泊(花巻温泉) ～厳美渓～猊鼻渓の船下り ～ＪＲ一関（ ～東京）

〔共催団体〕

歴史古街道団、ふろむな倶楽部、DANの会、
（講師は古街道団・宮田太郎）

〔旅行手配〕日本産業旅行㈱

〔その他〕定員 40 人（先着順）

参加費 46,800 円～ 52,000 円
（1室4人～ 2人）

〔申込先〕

小島 TEL/ FAX:　042－ 337-4291
石井 TEL/ FAX:　044－ 988-6011

バスツアー申込先
小島　TEL/ FAX:042-337-4291
石井　TEL/ FAX:044-988-6011

協力団体スケジュール

鎌倉古道さとびとの会
05年.　　代表:大杉公志

■10/18(火) 久地10:00集合
「今若伝説の長尾妙楽寺」

■11/8(火)　橘本10:00集合
「津久井城と古代甲州道」

■12/6(火)　新百合ヶ丘駅9:10集合
「二俣川古戦場と畠山重忠伝説」
※詳細は毎月「たま広報」に掲載

【連絡先】042-376-1122(遠藤)

歴史街道探検隊
古代民族歴史研究JAKKOの会
(探検隊＝A　古代民族の会＝B)

■05年10月10日(月)　(A)
“大学＆企業”よこやまの道
ウォーキングフェスティバル参加

■05年10月30日(日)(A・B合同)
実地踏査会
「よこすか浦賀の虎踊りと唐子踊り
＆浦島太郎子孫の荘園の謎」

■05年11月3日(木・祝)　(B)
「埼玉県寄居町の
宗像神社例大祭見学」

■05年11月6日(日)　(A)
実地踏査会
「厚木飯山金剛寺本尊の
特別御開帳と修験の白山を登る」

■05年12月4日(日)　(A・B合同)
勉強会
「高麗若光と伊豆山神社」

■06年1月8日(日)(A・B合同)
実地踏査会　(要申込)
「伊豆山神社と裏手山域の
遺跡を探る(熱海)」

■06年1月29日(日)　(A)
ウォーキング探索会
「湯島聖堂と昌平坂学問所から
神田明神周辺の歴史探索会」

【連絡先】歴史街道探検隊(宮田)
TEL/FAX＝042－389－5534
古代民族歴史研究JAKKOの会
TEL042－339－5055(佐久間)

「渡来文化研究団高麗若光研究会」は「古代民族歴史研究ＪＡＫＫＯの会」と名称を変更しました。

活動報告
(古代歴史探訪)

蓬莱の仙薬求め富士山へ？

前漢時代　BC3世紀の古代ロマン

徐福の渡来伝説を河口湖に追って

紀元前3世紀、秦の始皇帝の命を受けた徐福という人が、不老不死の仙薬を求めて、中国から日本に渡海して富士山麓に至り、現在の山梨県富士吉田市に居住し、この地で病没したという伝説があるー。

今回は歴史街道探検隊(宮田太郎隊長)と高麗若光研究会(佐久間かおり代表)が行った合同バスツアー「富士吉田の徐福伝説を探る」の調査報告の一部を紹介しよう。

車に揺られ富士と湖の国へ

東京は連日３０度を越す夏日の続く７月２２日朝7時3０分。多摩市の京王・小田急永山駅前に集合した一行１０人は、歴史街道探検隊の小菅さんの大型ワゴン車に乗って出発。車中では、中央自動車道周囲の夏の陽に光る山の緑や青い山々の景色を眺めながら、自己紹介したり、宮田先生の紀元前・東アジアの民族交流状況の話に耳を傾けながらの楽しい時間を過ごすうちに河口湖へ。あいにく山の天気は曇りがちで富士山頂は望めなかったものの、ひんやりと涼しい湖畔の風に迎えられて、河口湖浅間神社~ 北口浅間神社~ ヤマトタケル物見塚~ 富士大室浅間神社~ 小明日見の徐福の祠~ 松尾神社を見学。富士大室浅間神社では宮司の羽田氏から近隣の徐福伝承地を案内して頂いた。

―河口湖浅間神社―

徐福ってどんな人？

殷周時代に「徐」という名前が甲骨文字に出ている。今の山東省から江蘇省のあたりに「徐氏」という有力な部族がいたようだ。

１９８２年、江蘇省に、かって徐阜村と呼ばれた地区が存在したことが発見され、所蔵されていた郷土資料から、徐福が実在の人物であることが立証された。

「神皇記」によれば、始祖は黄帝の第四皇子・忠顕であり、父は応侯だった范雎(はんしょ)とある。彼は魏の遊説家であったが、貧しく苦労の末に魏を脱出し秦に入った。数代の王に仕え始皇帝にも仕えた父の縁で、東渡の人員に選ばれたのだろう。

徐福の東渡を伝える文献

「史記」(秦始皇本記)…２８年、斎人徐市等　上書していわく、海中に三山あり、名づけて蓬莱、方丈、澶州という。仙人之に居る。請う、斎戒と童男女とを得て之を求めん。是に於いて徐市を遣わして童男女数千人を発いて海に入り仙人を求めしむ。

「史記」(封禅書)…ほぼ上記に同じ。

「後漢書」(３９８年~４４５年)…　秦の始皇、方士徐福を遣わし、童男女数千人を将いて海に入り、蓬莱の神仙を求めしむれど得ず。徐福、誅を畏れ敢て還らず、遂にこの州に止まる」と。(以下略)

「義楚六帖」(９５１~９６０年に僧、義楚が著したもの)…　日本国、亦倭国と名づく。東海中にあり。秦の時、徐福、五百の童男、五百の童女を将いて批国に止まる。(中略)…

又東北の方千里に山あり、富士と名づく。又蓬莱と名づく。其の山峻しく、三面是れ海…

(中略)徐福批に止まり、蓬莱と謂えり。今に至るも子孫皆秦氏という…。

このほか、「桓壇古記」(高句麗本記)、「神皇記」などに東渡を伝えている。

―小明見の地蔵堂前の徐福像―

出航は今も同じ福建省か

日本における徐福伝説の伝承地は、青森から鹿児島まで全国１８都府県、３７市町村に及んでいる。もっとも多いのが佐賀県(３市４町)、次いで山梨県(１市2町)・愛知県(１市2町)・和歌山県(１市2町)。ちなみに東京都は八丈島・青ヶ島村である。

富士山一帯には、徐福がこの地へ到着し、子孫と共に住んだという「宮下文書」なるものがあり、これによると、船団は航海１０余日で住留家(駿河)に上陸し、松原宿から水久保宿を越え、富士北麓の阿祖谷小室の家基都(かきつ)に到着。

徐福一族はこの地に留まり、全員を大室・中室・小室に分散居住させ、開墾・農耕・製紙・機織・養蚕を行ったとある。徐福が没したのは富士中室とされている。

どこから日本へ出航したのか…。いろいろな学説があるが、東アジアの古代史講師・今村誠治氏は「徐福が出

航した所は福建省の福州ではないか」と推測する。桓壇古記には、徐福が出港したのが東冶（福州）と書いてあるし、子孫の系図が最も多く出てきたのが南の江西省からだった。また、福州は現在でも日本密航者の出航地であると言われている。

徐福の子孫はいま・・・

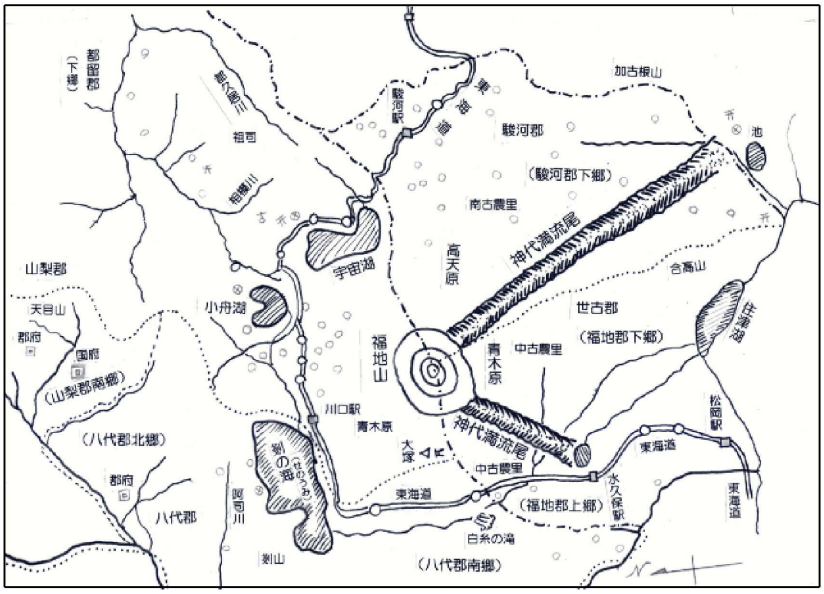
富士古文書によれば、徐福には中国から一緒にきた4人の子と、日本に来てから生まれた3人の子がいた。しかし、それぞれ姓を変え定住している。
長子・福永＝福岡氏、次子・福萬＝福島氏、三子・徐仙＝福山氏、四子・福寿＝福田氏、五子・福畑氏、六子・福海氏、七子＝福住氏。

現在の当主・福島吉一氏は藤沢市に居住し、菩提寺の妙善寺にある墓碑銘（天文２３年＝１５５４）には、一家が徐福の子孫である事が記されている。

えっ！富士が高天原？

現在の富士吉田市は富士山北麓にあり、富士の噴火で出来た溶岩の上にある標高８００メートルの高原地帯だ。しかし、徐福が渡来したＢＣ２００年代のこの土地はどうだったのか…。富士山は有史以来、何度と無く噴火を繰り返してきた活火山だ。記録に残る大きなものだけでも、天応元年（７８１）、延暦１９年（８００）、貞観6年（８６４）などがある。ここに添付した「延暦19年・福地山噴火前高天原略図」という古地図（図）を見てほしい。

富士山は当時「福地山」と呼ばれていて、図にある湖は、住津湖、宇宙湖(うつこ)、小舟湖、剗の湖（せのうみ）の4湖だ。現代名では、小舟湖は河口湖、宇宙湖が山中湖と忍野八海であり、剗の湖（せのうみ）は貞観6年の噴火による溶岩流で埋められ、本栖湖・精進湖・西湖に分断された。そして、山中湖の奥に広がる樹海は「高天原」と示されているのだ。もしかすると天孫降臨神話の高天原の元祖はここだったのか？　こんなロマンも今は硬く厚い溶岩の下に眠っている。



延暦十九年福知山噴火前高天原略図(トレース:河村重雄)

徐福の推定年表

年代	年齢	事　　項
BC278	0歳	徐福生まれる
BC250	28歳	インドへ仏学を学ぶこと7年
BC219	59歳	6/20 中国出帆、富士山を目指して航行し 10/25 紀州到着
BC217	61歳	3年滞在したあと、再び富士を求めて9/13 紀州を出発、10/5 富士山山麓の阿祖谷(富士吉田市大明見)到着 阿祖大神神官から日本の神代史を聞き秦字でまとめる(『除福十二史談』といい富士古文書の重要部分)
BC210	68歳	徐福最後の東渡
BC208	70歳	2/8 徐福　富士にて没、中室の麻呂山(富士吉田市小明見古原)に葬られたという

＜参考資料＞　　秦の国と始皇帝

秦漢時代(前3世紀末)の中国の地図を見ると、北方に匈奴、中央平原を秦の国が統一し、西に羌(きょう)・氐(てい)の国が並んでいる。周が東遷したあと(BC７７０年)、周の都があった峡西省の地に羌族を基層民とする国家が成立した。これが後に始皇帝の国家統一（BC２２１年）を経て、滅亡（BC２１０年）まで約560年続いた秦国だ。周囲の国々が興亡を繰り返す春秋戦国の世を乗り切って栄えた強国だった。

始皇帝（BC２５９～２１０年＝４９歳没）の出自はあまり明らかでないが、伝えられるところでは、その容姿は「紅毛・碧眼・白皙・隆鼻」で西域のイラン系・月氏の血を引くペルシャ人風だったらしい。そのためか冠から常に白いベールを垂らし顔を隠していたと言われる。

本名を政といい、秦王に即位したときは13歳の少年だった。長じて、全国３６郡の置郡制度、貨幣・度量衡の統一、文字及び思想の統一、皇帝尊厳の確立、万里の長城修復など業績も上げたが、国民はきつい労働と統制（焚書坑儒）に苦しんで農民の反乱や脱国者が出た。(清川理一郎『猿田彦と秦氏の謎』参考)

＊東アジアの古代文化を考える会・今村誠治氏　資料引用
＊歴史街道探検隊長・宮田太郎氏　資料提供

（執筆・編集）河村重雄・木村美和子

道との遭遇（であい）① 幼少時代

宮田 太郎

私の経歴など諸先輩の前でお話するのはおこがましいが、代表者の紹介だから掲載すべきということなので失礼をお許し戴きたい。昭和３４年2月、宮田家の長男として現在の東京都多摩市関戸 1513 番地で誕生。私の生まれた昭和３０年代の聖蹟桜ヶ丘駅はすでに関戸駅から名前が変わっていたものの、まだ広大な田んぼの中にぽつんとある小さな木造の駅舎で、改札口には湧水の水飲み場があり、燕が巣をたくさん作って飛び交う絵本に出てくるような駅だった。改札から府中方面のホームへ行くには踏み切りを渡らなければいけない。夏は蛙の大合唱を聞きながら日傘をさし、本を読みつつ電車が来るのを待つ人々の姿が印象的だった。駅前を通る川崎街道も砂利敷の細い道で、さほど多くない車が砂埃をあげて通り過ぎる。駅から大栗川付近にかけては一面のレンゲ畑が拡がり三角や家型に藁を積み上げた“わらぼっち”がつんつんと立つ田んぼや野っぱらばかりで、川沿いにあった炭焼き小屋から芳しい香りがいつも漂っていた。そんな関戸で育った私の遊び場は、わずか2～3両編成の京王帝都電鉄の電車が多摩川をゴトゴトと渡ってくる鉄橋や近所の駄菓子屋「小田野(おだの)」の前だった。

多摩川を渡る鉄橋の思い

父の仕事は放送作家で当時放映された「七人の刑事」などの番組の執筆に忙しく、時に喧(かまびす)しい子供の声は仕事によくないと、ひとつ違いの姉と私は比較的自由に戸外で遊ばせてもらっていたようだ。京王の電車との記憶は、姉と友達数人に連れられ関戸橋たもとのレールの上でよく遊んだことだ。時には線路上で寝てしまうし、物は置くしで、よく電車が急ブレーキをかけて止まり、車掌さんが降りてきて「コラーッ」と怒鳴られた。草むらに頭隠して何とやらのように散り散りになって隠れるが、ある日、近くまで車掌さんが追いかけて来た。手には置き去りにされたおもちゃがひとつ。「ここで遊んじゃだめだぞ」と言ったその目だけは何となく優しかったような記憶がある。今だったら一体どんな大変なことになっていたのだろうか。もう一方の遊び場である関戸の駄菓子屋の前の道では、たまに通る車のクラクションに気付いた母が駆け寄ると、遊び疲れた僕が路上で寝ていたこともあったそうだ。多摩川をほどなく渡るこの場所は、実は旧鎌倉街道である。今にして思えば、この頃が鎌倉古街道との最初の出会いだったかもしれない　＝写真は左が筆者、右は姉･慶子＝

（古街道研究家･歴史古街道団団長）

ボランティア募集

古街道団では、11月23日までを「さきもりまつり」シリーズとして、“万葉防人の歌”学習会のほか、防人の歩いた道ウォーキングなどを実施します。これらのイベントや通常活動にボランティアで協力してくださる方を求めています。主な仕事は下記の通りです。

★ｳｫｰｷﾝｸﾞ STAFF＝ウォーキング中の参加者の安全確保
★編集 STAFF＝団報「歴史ロマン古道ニュース」の編集取材
★調査･研究部仲間＝地域の歴史･民族･資料の収集や実地調査など一緒に出来る方
（謝礼はありませんが参加費無料･ﾚｸﾘｪｰｼｮﾝ保険有）参加希望の方は、各イベント参加のときに役員に申し出て下さい。

新規団員募集中！＜入団のご案内＞

団員には次の種類があります。

1、個人団員（個人）　2、賛助団員（団体･法人･個人）

上記の個人の年会費は 3,000 円(毎年4月1日から翌年3月31日までの分)です。団員には団報が年 3 回、ほかに臨時お知らせ号などが送られます。賛助団員は 10 口以上で入団登録となり、優先的に提携事業のお手伝いをさせて頂きます。『研究会誌』が発行された際には、新たに研究団員(年会費＋2,000 円)と会誌購読団員(購読のみ 2,500 円)も出来る予定です。

[お申し込み方法]所定の郵便振替用紙の申し込み欄に必要事項をご記入の上、年会費(3,000 円)をお振込みください。ご夫婦･ご家族で入団の場合は、家族会員として 1 口分(2 人で会費 3,000 円/ 団報はご家庭に 1 通)です。

※入団等に関するお問い合せは下記までご連絡ください。

TEL／FAX:042－337－4291(小島)

【発行】歴史古街道団
事務局:〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 4-36-21 APT 1･2･3-302　宮田 太郎（歴史古街道団団長）
TEL／FAX 042-389-5534　http://homepage3.nifty.com/kokaido/
編集責任:歴史古街道団編集部